

## 動名詞の名詞述語文「VN+だ」の意味用法をめぐって

石立珣

本稿では、連用的形式を受ける動名詞の名詞述語文「VN+ダ」を取り上げ、その意味用法に基づき、類型化を試み、次の5種に大別した。

- |                       |                                 |
|-----------------------|---------------------------------|
| ①予定表書き込み型の「VN+ダ」      | 例：明日は大学へ九時に <u>集合だ</u> 。        |
| ②予想としての条件―帰結型の「VN+ダ」  | 例：この問題が解決しなければ、私は <u>破滅</u> です。 |
| ③予想・予測事態の現場実現型の「VN+ダ」 | 例：たった今、船が港に <u>接岸</u> です。       |
| ④態度表明型の「VN+ダ」         | 例：私は、その説に <u>賛成</u> である。        |
| ⑤事態制御文型の「VN+ダ」        | 例：杉子とは <u>絶交</u> だ。             |

その上で、「VN+ダ」の成立条件をスクリプトとの関連から整理した。つまり、①スクリプトを駆動させる、②VNがスクリプト的に予想できる選択肢の一つである、という二つの条件が満たされれば、「VN+ダ」の使用が可能であると指摘した。さらに、「VN+ダ」は動作そのものではなく、概念の対応関係を表すものであり、対応としての扱いができた文脈に調整すれば、「VN+ダ」は言いやすくなるということについても指摘した。これはVNの名詞としての機能を示唆するものでもある。今後品詞性と意味との関係を検討していく手がかりにもなる。